入澤静詔先生退職記念イベント IN日産スタジアム

皆さんは「日産スタジアム」をご存知ですか?
日韓ワールドカップの決勝戦の会場となった、新横浜国際競技場です。
我々、サッカー部OB会は、ここを会場としたイベントを開催しましたので、その内容・顛末をここにご報告いたします。
きっかけは、遡ること、二年前の正月のOB会「初蹴り」後の懇親の席でした。OBの多くが教えを受けた入澤先生の「還暦」をお祝いし、赤のユニフォーム・シューズ等をお贈りした際、一部のOBから、「次は、退職記念の試合を国際競技場でやろう!」との無茶苦茶な提案がありました。勿論、アルコールの入った席での話で、数人を除いて、誰も実現するとは考えもしませんでした。しかし、聖光学院の事務長で高校サッカー部の顧問である中嶌君(11期)が深く、静かに会場の利用を探ってくれていたのです。
一月の下旬に中嶌君から「三月十九日に日産スタジアムが使える。」との一報が入ったのです。ロナウドが、ロベルト・カルロスが、カーンがプレーをした同じピッチに立つという夢のような話が「現実」のものとなったのです。現役サッカー部員中村君のお父様のご尽力によるものでした。
開催に向けての準備にはいりました。五〇〇名を超えるOBへの案内状の発送から始まり、試合の進行、懇親会の会場等々の打ち合わせや、日産スタジアムの会場視察、運営のスタッフとなってくれるOBの募集、そして打ち合わせ。アッという間に時間は過ぎていき、三月十九日の当日を迎えました。
十二時三〇分に、幹事と受付、場内整理等のスタッフを買って出てくれた有志が集合し、いよいよ「入澤先生退職記念」イベントの開始。時々日のさす、まずまずの天気に一安心。
十三時集合の案内のとおり、1期生から42期生までの一四〇名を超えるOBと、手伝いをお願いした現役生が時間どおりに集合し、スパイクの紐も結ばずにグランドに一目散。芝生の管理上、ピッチの上に立てるのは合計二十二人で、時間も一〇〇分以内という条件のもと、現役生徒を含め、全員がゲーム?を楽しめるように、試合時間十五分、六ゲームという時間設定を計画しました。電光掲示板には聖光学院の校章や、入澤先生の「雄姿」が写しだされ、皆、携帯のカメラでスタンドや、掲示板を記念撮影。ゲーム前やゲーム中の写真撮影は、11期生のプロカメラマン志村君が買って出てくれたおかげで、ゲームに入る雰囲気も最高!
さすがに「紳士たれ」の教えが何年たっても活きているのか、7期の宮道先輩の「何とかなるよ」的な進行が功を奏したのか、奇跡的ともいえる予定通りの時間で終了することができました。五十歳を超えたOBから、今年卒業した若手、現役生が無事に試合を終え、メインスタンドで入澤先生ご夫妻を中心に、大集合写真の撮影でグランドでの行事を終了。
引き続き、懇親会をスタジアム内の会議室にて、午後五時から開始です。
ケータリングは、聖光の食堂に入っている神奈川クッキングにお願いし、7期・後藤先輩の軽妙かつアバウトな進行により、ご来賓として、一緒にプレーをして頂いた港北高校校長の伊藤先生のご挨拶に始まり、各年次を代表する方々から、聖光でのサッカー部の思い出、入澤先生への感謝の言葉で会場は盛り上がりました。同期、先輩・後輩の懇談で共通して出たのは、入澤先生の「愛の竹ムチ」の話題でありました。

あっという間の二時間が過ぎ、入澤先生の「生涯で最高の一日」との言葉のとおり、参加者全員が同じ想いで懇親会を終え、日産スタジアムをあとにし、新横浜の闇夜に、疲れていながらも軽やかな足取りで帰路につきました。
サッカー部OB会は、このイベントで終わりではありません。幹事として運営に参加したメンバーを中心に、「継続的なOB会組織にしていこう。」との機運が盛り上がり、後日開催した「幹事会」により、2期の中山先輩を会長とし、OB会を組織化することとなったのです。「OB会発足記念試合」として、慶応大学サッカー同好会のOB(五十歳前後)との試合を五月十四日に1期から26期の四十歳以上の有志でおこないました。ユニフォームは聖光のユニフォームを借り、何とかメンバーを集めましたが、いかんせん練習不足。結果は0−2で敗退でした。
栄光学園や浅野学園でも同様のOB会があり、それぞれの年代でチームを作り、試合もおこなっているとのこと。我々も「少しずつ」しっかりとしたOB会にしていこう、との意欲をもって会の運営を行っていく所存ですので、OBの皆様の積極的な参加とサポートをお願いします。
最後に、今回のイベントにスタッフとして運営にご協力いただいた方々、当日の都合で参加出来ずに、寄付をお寄せいただいた方々、ゲーム進行のために参加いただいた現役生、そして、何よりも、日産スタジアムの使用にご尽力いただいた中村様に、紙面をお借りし感謝いたしますとともに、OB会の通知が何らかの理由で到着しなかった方々にお詫び申し上げます。

(11期生　遠藤　知明)

シリーズ 卒業生のお店紹介

第13回 シーアンドシーツアーズ

3期生　中村淳一　氏経営

皆さん、こんにちは。私は3期卒業生の中村淳一と申します。当年とって五十七歳、現在九州は福岡の地で旅行代理店を営んでおります。
同期生の中で私だけが飛び離れて遠方の地で暮らしておりますが、その辺のいきさつについて初めに少しお話をしたいと思います。
そもそも私は福岡生まれですが、父の仕事の関係で小学二年生の時に横浜に引っ越して参りました。大学卒業後、東京で働いておりましたが、どうしても東京の水に合わず、二十八歳の時に一大決心をして故郷の福岡に戻りました。以来福岡の住人としてこの地に根を下ろし今日に至っております。
福岡という街は、中央から見れば一地方都市に過ぎませんが、私自身ここでの生活環境には大変満足しております。私は現在西区に住んでおりますが、オフィスのある天神までは車で三十分前後、また仕事柄空港を利用する機会が多いのですが、福岡空港へは都市高速を使えばわずか二十分で行くことができます。最寄りのゴルフ場へは三十分もかかりませんし、車で一時間以内には十指に余る温泉地があります。一方海外に目を向ければ、冬ソナブームで人気の韓国〔ソウル〕へは飛行機で約二時間、釜山に至っては、わずか三十分という所要時間です。(福岡からは、東京や大阪よりも海外の方が近いのです。)日本広しといえども、このように恵まれた環境にある都市は少ないのではないでしょうか。ただ不満があるとすれば、幼な馴染みや青春時代を共に過ごした旧友達といつも気軽に会えないということでしょうか。
少々前置きが長くなりましたが、ここいらで本題である弊社の紹介をさせていただきます。
福岡に戻り、学生時代より希望の旅行業界に入り、いくつかの旅行会社で経験を積んだ後、四十五歳の時に(いささか遅い年齢ではありましたが)念願の旅行会社「C&C シーアンドシーツアーズ」を設立致しました。よくお客様よりC&Cとはどう言う意味ですか?と聞かれますが、(別にA&Aでも B&Bでも良かったのですが)Cross Culture(異文化交流)、Creativity &Challenge(創造と挑戦)、Contribute to Community(地域国際化への貢献)と言った意味合いを持たせ社名と致しました。取扱商品としては、いわゆる国内・海外の格安航空券からビジネスパック、団体旅行や個人旅行等旅行の全てを取り扱っておりますが、現在最も力を入れておりますのが、弊社のオリジナルツアーで少人数を対象とした『わがまま・気まま三昧アメリカの旅』です。
これは、夫婦やファミリー、気の合ったお仲間など最少二名様より専用車をご用意し、専任のトラベルアドバイザーが日本より全行程同行して、付きっ切りでお客様のご要望にお応えして行くといった究極のわがままツアーです。このツアーでは事前に経験豊かなアドバイザーが旅行日程や旅の目的等お客様のご要望に添ったプランを作成し、現地では自らハンドルを握り、一般のツアーでは行かないローカルのショッピングセンターや地元で人気のレストラン、通常ではオプショナルツアー扱いのファクトリーアウトレットや観光地にも無料でご案内致します。又ホテルの出発時間もお客様のその日の体調に合わせて時間調整致しますし、観光地やショッピングでの滞在時間もご希望どおり確保致します。このツアーは、いわゆる従来のパックツアーでは日程や時間に制約があり不満、でも一人旅は不安といった方々にぴったりの究極のわがまま・ご満足ツアーです。興味おありの方は、是非弊社のホームページにお立ち寄り下さい。
http://www.h6.dion.ne.jp/~candc/
(ヤフー・Google より弊社名で検索できます。)

卒業生の皆様、来福の折やご旅行の機会がございましたらお気軽にご相談下さい。皆様には、VIP待遇にてサービスに努めさせていただきます。
最後にこの場をお借りして一つ提案がございます。九州地区にお住まいの卒業生がいらっしゃいましたら是非ご連絡下さい。聖光卒業生としての誇りを持ち、親睦を図り、共に切磋琢磨していけるような会を作りたいと思っております。

【連絡先】
シーアンドシーツアーズ
〒810−0001
福岡市中央区天神4丁目9の10(第二正友ビル)
(TEL) 092−731−9301
(FAX) 092−731−9302
(メール) candc@m9.dion.ne.jp

滝之上会ゴルフコンペ開催

五月八日(日)、第十一回滝之上会ゴルフコンペが、千葉県の花生(ハナオ)カントリークラブにて開催されました。聖光学院卒業の皆様が、総勢四十一名(2期生から26期生まで)と多数参加され、工藤誠一校長、古城光秋先生、森孝先生を始め、松本純衆議院議員も出席されました。
同期が同じ組でラウンドするケースが多く、和気あいあいにゲームは進みました。滝之上会会長・後藤彰久氏、副会長・宮道不二男氏を始め、7期の方々が幹事を務められ、池の中ノ島に乗せれば賞品をプレゼント等、色々と楽しい趣向が凝らされていました。
又、参加者にもれなく豪華賞品が用意されており、賞品を協賛頂いた方々に、改めて御礼を申し上げます。
ちなみに、優勝は、荒川博之氏(7期)でした。パーティの席上、皆様から寄付を頂き、聖光学院育英会に寄付することができました。
来年の幹事は、滝之上会次期会長の安宅寛氏を始め、9期の方々となりました。来年も、多数の皆様のご参加をお願い申し上げます。

編集後記

昭和六十一年一月に校友会報の第1号を発行して以来、足かけ二十年間にわたり広報の責任者としてその編集に携わってきましたが、この度その役を辞し同期(3期)の石原義一君に広報委員長をお願いすることとなりました。
IT(情報技術)の発達した昨今、以前ほど会報の必要性は無くなってきているとはいえ、当初の発行目的である「校友どうしのコミュニケーション提供の場」としての使命は、依然続いているものと思います。今後ともより良き会報作製の為、ひき続き投稿等を通しての御支援、御協力をお願い致します。

(S・T)